新潟県立がんセンター新潟病院

Niigata Cancer Center Hospital

基本理念

県民をはじめとする全ての患者さんに、最善のがん医療を提供します

基本方針

1.常に診療情報を開示して、患者さんとの信頼関係をもっとも大切にします。
2.がん診療連携拠点病院として、すべての医療機関と連携を密にします。
3.がんの研究を行うとともに、患者さんのための医療人の育成に努めます。
4.病院運営の適正化と効率化に努めます。

あゆみ

当院は、昭和25年、性病の治療と予防を目的とした県立新潟病院として、内科、性病科の2診療科20床で開院しました。
昭和33年、県にがん対策推進委員会が設置され、全国に先駆けてがんの診断及び治療の総合センターを建設することになり、昭和36年、県立ガンセンター新潟病院として新発足しました。
以来四半世紀を経過、医療のめざましい進歩と増大する医療需要に対処するため、昭和59年全面改築工事に着手、昭和62年5月から名称を県立がんセンター新潟病院と改め今日に至っています。

昭和 25年	5月	県立新潟病院として性病予防法に基づく性病の治療と予防及び健康診断を目的に開設され、内科・性病科（皮膚、泌尿器）を置き病床数20床で運営を開始
昭和 32年	6月	病棟を新設　190床
昭和 34年	6月	病棟を増設　280床
昭和 36年	1月	「県立ガンセンター新潟病院」と改名 診療科目　10科　病床数366床、乳児施設30床
昭和 41年	4月	許可病床数454床（助産施設20床含む）乳児施設30床
昭和 46年	4月	「臨床研修病院」指定（厚生省）
昭和 50年	4月	許可病床数変更承認436床
昭和 62年	5月	「県立がんセンター新潟病院」と改名 診療科目　16科　病床数450床
平成 元年	11月	小児骨髄移植を実施
平成 5年	1月	財団法人骨髄移植推進財団の骨髄採取及び移植実施施設（小児科）
平成 8年	4月	精神科を開設し、診療科目は18科となる　病床数450床
平成 10年	9月	がん予防総合センター検診業務開始
平成 11年	4月	西2化学療法病棟50床増設。病床数500床
平成 12年	10月	（財）日本医療機能評価機構の認定証（ver. 3. 1）取得
平成 13年	3月	被ばく医療センター完成
平成 14年	12月	「地域がん診療拠点病院」指定（厚生労働省）
平成 16年	10月	外来化学療法開始
平成 17年	7月	高精度定位放射線治療装置（ノバリス）稼働
同年	10月	（財）日本医療機能評価機構の認定証（ver. 5. 0）取得
平成 18年	4月	医療安全管理室を設置
同年	11月	産科廃止・診療科目は17科となる。病床数500床
平成 19年	1月	都道府県がん診療連携拠点病院の指定
平成 21年	4月	放射線診断科・放射線治療科・緩和ケア科を開設・DPC開始
同年	10月	（財）日本医療機能評価機構の認定証（ver. 6. 0）取得
平成 23年	4月	病理診断科を開設
平成 24年	8月	リハビリテーション科を開設
平成 25年	4月	消化器外科、乳腺外科を開設し、診療科は21科となる
同年	10月	形成外科を開設・歯科を歯科口腔外科に名称変更
平成 27年	3月	西2病棟50床閉鎖　病床数450床
同年	10月	（財）日本医療機能評価機構の認定証（3rdG:Ver.1.1）取得
同年	11月	外来化学療法室移設増床（15床増床　計30床）
平成 28年	10月	地域包括ケア病棟設置
平成 29年	3月	放射線治療装置稼働（増築）
同年	9月	入院支援センター開設
平成 31年	2月	緩和ケア病棟開設　病床数421床
同年	4月	がんゲノム医療センター開設
令和 2年	12月	（財）日本医療機能評価機構の認定証（3rdG:Ver.2.0）取得
令和 3年	1月	研究部　ISO15189認定取得
同年	3月	西6病棟17床廃止、病床数404床
令和 4年	11月	手術支援ロボット「ダビンチ」導入

新潟県立がんセンター新潟病院

7階 西病棟	内科	54床	7階 東病棟	内科、小児科	47床
6階 西病棟	内科、眼科	36床	緩和ケア病棟	緩和ケア	21床
5階 西病棟	消化器外科、呼吸器外科	46床	5階 東病棟	消化器外科	45床
4階 西病棟	婦人科、乳腺外科、皮膚科	51床	4階 東病棟	泌尿器科、脳神経外科、整形外科、形成外科	48床
3階 西病棟・手術室	内科、頭頸部外科、放射線治療科	56床			
2階 外来・化学療法室	外来診療部（消化器外科、乳腺外科、麻酔科、呼吸器外科、形成外科、小児科、婦人科、頭頸部外科、皮膚科、眼科、緩和ケア内科、歯科口腔外科）／検査部／病理部／からだのとしょかん／売店／外来化学療法室／医療安全管理室／臨床試験支援室				
1階 外来	受付、会計、入退院／総合案内／外来診療部（内科、泌尿器科、脳外科・脳神経内科、整形外科）／薬剤部／中央放射線部／放射線治療科／核医学検査室／採血室／中央内視鏡室／リハビリテーション科／栄養指導室／患者サポートセンター／緩和ケアセンター／入院支援センター				

がん予防総合センター

連絡通路 3階	
2階	予防センター外来（内科、乳腺外科）／予防センター放射線科（マンモグラフィ、CT）／予防センター内視鏡室（上部消化器、大腸）
1階	外来食堂

病床数　一般383床、緩和ケア21床　計404床

診療科目　内科（消化器、呼吸器、血液・化学療法、内分泌、腫瘍循環器）、消化器内科、脳神経内科、小児科、外科、消化器外科（食道、胃、大腸、肝・胆・膵）、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、婦人科、頭頸部外科、リハビリテーション科、眼科、皮膚科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、精神科、病理診断科、緩和ケア内科　計24科

機関指定・学会指定

厚生労働省がん診療連携拠点病院,日本医療機能評価機構認定病院,がんゲノム医療連携病院,小児がん連携病院,厚生労働省臨床修練指定病院,厚生労働省臨床研修病院,呼吸器外科専門医合同委員会専門医制度基幹施設,日本呼吸器学会　新潟大学呼吸器専門研修プログラム　連携施設,日本整形外科学会研修施設,日本皮膚科学会認定専門医研修施設,日本臨床腫瘍学会認定研修施設,日本臨床細胞学会認定施設,日本臨床細胞学会教育研修施設,日本外科学会専門医制度修練施設,日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設,日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設,日本乳癌学会認定施設,日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設,日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設,日本輸血・細胞治療学会　I&A認定施設,日本輸血・細胞治療学会指定研修施設,日本医学放射線学会専門医総合修練機関,日本消化器外科学会専門医修練施設,日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設A,日本麻酔科学会認定病院,日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士実地修練教育施設,日本緩和医療学会研修施設,日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修施設,日本がん治療認定医機構認定研修施設,日本核医学会専門医教育病院,ソロプチミスト日本財団社会ボランティア賞　院内保育ボランティア　たんぽぽ,骨髄移植推進財団非血縁者間骨髄採取認定施設,新潟県医師会母体保護法による施設設備,日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設,日本眼科学会研修施設,日本小児血液・がん学会小児血液・小児がん専門医研修施設,Japan Clinical Oncology Group 参加施設,日本胆道学会認定指導医制度指導施設,日本臨床衛生検査技師会精度保証施設,日本食道学会食道外科専門医認定施設,日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会エキスパンダー実施施設,日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会インプラント実施施設,日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設,日本消化器病学会認定施設,日本大腸肛門病学会認定施設,日本消化器内視鏡学会指導施設,日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会耳鼻咽喉科専門医研修施設,日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連施設,日本超音波医学会研修施設,National Clinical Database2022年度NCD施設会員,日本造血・免疫細胞療法学会非血縁者間造血幹細胞移植施行診療科,日本放射線腫瘍学会認定施設,日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構　遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設,日本ペインクリニック学会・ペインクリニック専門医認定委員会指定研修施設,日本血液学会専門研修認定施設,日本膵臓学会指導施設,関東甲信越地域小児がん医療提供体制連絡協議会小児がん連携病院,日本肝臓学会認定施設,日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医制度指定研修施設,日本適合性認定協会ISO 15189,日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設

病院実績

Hospital Performance

●がんの新規症例数（がん診療連携拠点病院 院内がん登録 2020年全国集計より 県内上位10がん種）

	全がん	大腸	胃	肺	乳	前立腺	子宮	膀胱	悪性リンパ腫	食道	皮膚
県内拠点病院合計	16,329	2,275	1,990	1,874	1,524	1,252	753	631	586	551	548
当院	3,387	330	339	506	395	320	211	184	72	144	220
当院が占める割合	21%	15%	17%	27%	26%	26%	28%	29%	12%	26%	40%

●がんの5年生存率（がん診療連携拠点病院 院内がん登録　2013-2014年生存率集計より）

●手術件数（2022年）

消化器外科	663
乳腺外科	330
整形外科	241
脳神経外科	15
呼吸器外科	274
婦人科	257
頭頸部外科	228
形成外科	40
眼科	180
皮膚科	769
泌尿器科	907
麻酔科	293
内科	4
合計	4,201

●内視鏡検査および治療件数（2022年）

気管支鏡（BF）	検査	352
上部消化管内視鏡（EGD）	検査	4,583
	治療	440
大腸内視鏡（CS）	検査	1,605
	治療	742
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）		300
内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）	検査	64
	治療	228
超音波内視鏡（EUS）	観察	169
	FNA	140
	治療	24
合　計	検査	6,913
	治療	1,734

●現在実施中の治験（2022年12月末現在）

乳がん	乳腺外科	6
胃がん	消化器外科	3
血液がん	血液内科	3
肺がん	呼吸器内科	23
皮膚がん	皮膚科	1
婦人科がん	婦人科	2
合　計		38

キャンサーボードについて

Cancer Board

毎月1回　院内キャンサーボードを開催しています。課題のある様々な症例について、“患者さんのためにどうしたらよいのか?” テレビ中継の地域関連病院を含めた参加者全員で考え、診療科・診療部門横断的に熱い議論を交わしています。

セカンドオピニオン

Second Opinion

セカンドオピニオンとは、現在の診断や診療方針について、担当医以外の第三者的な立場の医師に意見を求めることをいいます。

当院にはさまざまな「がん」に対するエキスパートが数多くおり、手術適応や化学療法の選択など、依頼内容に応じて相談を受け付けています。治療を検討するためにはCTや病理診断結果、これまでの治療内容などが非常に重要になるため、あらかじめ資料の準備をお願いします。

セカンドオピニオンはあくまでも治療方針等について意見を聞く場です。当院での治療を希望する場合は、あらためて地域連携室を通しての紹介が必要です。

放射線診断科

Department of Diagnostic Radiology

MDCT *Multi-Detector Row Computed Tomography*

診断CT装置は本院に2台、がん予防総合センターに1台設置され、年間約23,000件の検査を行っています。2019年3月に検出器256列のDual Energy CTを導入しました。検出器の更なる多列化によって広範囲を短時間で撮影でき、高い診断能を保ちつつ患者さんにより優しい検査を行うことが可能となりました。また、Dual Energy CTにより仮想単色X線画像や物質弁別画像を提供でき、更に造影剤の効果を高めたり、造影剤や脂肪などの物質の分布を画像化したりと、高度がん医療に役立っています。

仮想単色X線画像
(40keV)

肺癌手術術前3D画像

脂肪密度画像

MRI *Magnetic Resonance Imaging*

シーメンス社製のMRI装置（1.5テスラ）2台を稼働しています。MRI検査は、X線を使用しないため放射線被曝の心配はなく、繰り返し検査を行うことが可能です。写真のAeraは開口部が直径70cmの大口径であり患者さんへの圧迫感や閉塞感を軽減しています。MRI検査は人体組織に対する感度が高く、任意の断層画像を様々なコントラストで画像化することができます。検査時間は部位や内容により異なりますが、概ね30分です。そのため30分程度の安静保持が必要となります。また強力な磁場環境で行うため厳重な金属チェックが必須となります。

IVR *Interventional Radiology*

IVRとは、X線透視を行いながら体内に細い針や管（カテーテル）を挿入し、病変部に薬や治療器具を注入・設置する治療法です。外科手術のように体を切り開くことなく、病変部に対して集中的に治療を行うことができます。

当科では、IVR-CT搭載血管撮影装置を設置しています。X線透視、血管造影撮影にCT撮影を組み合わせ、動注化学療法、動脈塞栓術、上大静脈ステント留置術、CTガイド下生検など高精度の画像下治療を実施しています。

治療前CT
(肺癌による上大静脈閉塞)

治療前
(顔や腕の血流障害)

ステント留置後
(血流が改善)

PET-CT *Positron Emission Tomography- Computed Tomography*

当院は、2010年に県内で初めてPET-CT検査を開始し、現在は年間約2,000件の検査を実施しています。検査薬として使用する18F-FDGをサイクロトロンで院内製造している県内唯一の施設で、体重ごとに投与量の管理を行っています。18F-FDGはアレルギー反応や副作用がほとんど報告されておらず、CTなどで造影剤検査が受けられない方でも、PET-CT検査を受けることができます。

PET-CT検査を行うことで、治療前では病巣の大きさや場所の特定、良性・悪性の鑑別、転移状況等を、治療後では転移や再発の有無を、全身を一度に検索可能でがんの発見に威力を発揮する検査です。

RI *Radio Isotope*

放射性同位元素（RI）を利用した「検査」と「治療」を行っています。

「検査」は骨や心筋のシンチグラフィなどの静態検査から脳血流シンチグラフィやレノグラムといった動態検査まで、目的に合わせプラナー像とSPECT像を撮像しています。

「治療」は以下のRI治療を行っています。県内では限られた施設でしか実施していません。

- ^{131}Iカプセルを用いた分化型甲状腺がんとバセドウ病の内用療法
- ^{125}Iシードを用いた前立腺がんの密封小線源治療
- 塩化ラジウム（^{223}Ra）を用いた骨転移陽性の去勢抵抗性前立腺がん（CRPC）の内用療法
- ^{177}Lu注射液を用いた神経内分泌腫瘍の内用療法

放射線治療科

Department of Radiation Oncology

近年、コンピュータ技術の高度化と治療装置の高性能化によって、腫瘍に限局して高線量を投入する放射線治療技術が進歩し、さまざまな臓器において周囲正常細胞への放射線量を極力抑えた治療が可能となってきました。当院においても、そのような高精度放射線治療をできるだけ多くの部位に行い、身体にやさしい放射線治療を目指して診療を行っています。

2021年の当院放射線治療科新規登録者数は879例で、再発腫瘍・重複癌等での当科再紹介例を合わせて1,073例でした。

定位放射線治療について：2020年4月からの適用疾患改訂により、「5個以内のオリゴ転移」が対象疾患に加えられたことで、従来の定位放射線治療の保険適用の病態が大きく拡大されました。2021年の定位放射線治療症例数は197例（部位別：肺病巣が131例、脳・頭蓋内が51例、他15例）でした。

強度変調放射線治療（IMRT）について：現在当院では、前立腺癌や頭頸部領域を中心に行っており、トモセラピー「ラディザクト」の導入によって、汎用リニアックでは治療に難渋した頸部から腹部リンパ節をターゲットとした食道癌や、両側頸部リンパ節転移を伴った肺癌などの症例にも根治的な治療計画を行うことが可能になりました。2021年のIMRT施行症例数はトモセラピーの導入により124例（昨年は72例）と大幅に増加しています。

小線源治療について：前立腺のI-125シード治療を施行している施設は新潟県内では当院だけで、その治療の継承を泌尿器科とともに担っています。子宮頸癌は腔内照射にとどまらず、組織内照射も組み合わせたハイブリッド治療も行っています。

施設設備およびスタッフについて：2021年は放射線治療装置については、2020年と変わりなく、リニアック（トモセラピーを含む）3台による高エネルギーX線と電子線による外照射、および高線量率密封小線源治療装置1台で治療を行っています。スタッフは放射線治療医4名（放射線治療専門医4名）、放射線治療担当技師11名（放射線治療専門放射線技師3名）、医学物理士2名（2名とも放射線治療品質管理士資格あり）、看護師3名（がん放射線療法看護認定看護師1名）の体制で、外来診療は土日祝日を除いて毎日行っています。

中央手術部

Central Operating Room

当院の中央手術部では、がんの症例を中心として年間5,000件前後の手術を行っています。手術を受けられる患者さんおよび家族の方々に安心感と満足を実感していただけるように、「頼りになり、思いやりがあり、やさしい、安全な手術ができる手術部」を目指しています。

安全性の確保と質の向上を目的として中央手術部会議を毎月開催し、手術部セーフティーマネージメントの報告と対策についての検討、各科に共通する諸問題を議題に取り上げ、一つひとつ解決する事を目指しています。

また、令和4年より手術支援ロボット「ダビンチ」(da Vinci Xi)を導入し、稼働を開始しております。今後、低侵襲手術を積極的に行ってまいります。

HCU

High Care Unit

HCU(High Care Unit)は、大きな手術後の急性期及び重症患者を対象とした安全で質の高い医療の提供と高度な看護を実践する全科混合病棟です。当院では様々ながんに対する大きな手術後の患者さんが入室しております。術後早期の不安定な状態に対して安全で専門性の高い医療の提供を心がけております。

手術支援ロボット「ダビンチ」について

da Vinci Surgical System

「ダビンチ」は、患者さんへの負担が少ない鏡視下手術を支援する手術支援ロボットです。3D画像、手振れ防止、多関節機能などが搭載されております。ダビンチサージカルシステムは、サージョンコンソール、ペイシェントカート、ビジョンカートの3つの機器で構成されます。執刀する医師は司令塔であるサージョンコンソールに座り、手洗いをすることなく、3D画像を見ながら手元のハンドルを操作します。ハンドルを操作するとペイシェントカートのアームと鉗子が術者の手のように自在に動いて手術を行います。優れた操作性とリアルな3D画像により精緻な手術が可能となり、術後の疼痛は少なく、早期の社会復帰が可能となります。

中央内視鏡部

Central Endoscope Room

内視鏡検査は食道・胃・大腸などの消化管疾患、膵・胆道疾患、肺疾患の診療には必須であり、診断から治療目的の内視鏡にシフトしています。超音波内視鏡下穿刺術（EUS-FNA）、超音波気管支鏡ガイド下針生検（EBUS-TBNA）は県内トップレベルの症例数を誇り、診断・治療困難例に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）や超音波内視鏡下胆道ドレナージ術（EUS-BD）なども積極的に取り組んでいます。

最新の内視鏡器機を使用し、最先端の診断・治療を行うと共に、患者さんの負担が少ない、安全な検査、治療ができる内視鏡部を目指しています。

外来化学療法室

Outpatient Chemotherapy Room

がん薬物療法は、治療法や支持療法の進歩、生活の質への考慮により、治療の場が入院から外来へとシフトしています。当院の外来化学療法室は、電動ベッド20床・リクライニングチェア10床が設置されており、利用件数は年々増加しています。安全確実な薬物の投与管理のほか、診察前に看護師が患者さん一人ひとりに問診を行っています。医師・看護師・薬剤師等と連携をとりながら、患者サポートセンターや緩和ケアセンターとも協働する体制を整えており、患者さんの生活と治療が両立できるように支援しています。

看護部

Department of Nursing

看護部の理念は、「がんと共に暮らす患者・家族に対し、その人らしさを大切にした最善のがん看護を提供します。」であり、こうした人材を育成するために、個々のキャリア形成に必要な研修を段階的に進め、がん看護の専門性を高めています。また、がん専門看護師、緩和ケアやがん化学療法などの認定看護師等のスペシャリスト育成のための支援も行っています。

PNS看護提供方式を取り入れ、新卒採用者や中途採用者が不安なく働くことができるように支援し安心・安全な看護が提供できるよう努力しています。チーム医療のキーパーソンとして、患者さん・ご家族へ質の高いがん医療の提供に努めています。

専門看護師・認定看護師

Certified Nurse Specialist / Certified Nurse

当院では、がん看護専門看護師と遺伝看護専門看護師、緩和ケア、がん性疼痛看護、がん化学療法看護、乳がん看護、がん放射線療法看護、感染管理、皮膚・排泄ケア、手術看護分野の認定看護師が活動しています。主に病棟、外来、手術室、緩和ケアセンターにおいて、より専門性の高い看護を提供するとともに「がん看護外来」を担当しています。当院通院中の患者さんとご家族が安心して治療や療養生活を送れるよう身体面、心理面、社会面の問題に対する相談を受けています。患者さんに寄り添い、質の高い看護の提供に取り組んでいきます。

緩和ケアセンター

Palliative Care Center

緩和ケアチーム・緩和ケア外来・緩和ケア病棟を統括し、院内・院外における緩和ケアの普及や質の向上をめざして活動しています。

活動目的①
患者さん・ご家族のQOLの維持・向上

- 苦痛の定期的な把握
- 緩和ケアチーム活動（専門的緩和ケア提供）
- 意思決定支援
- アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）
- がん看護外来の運営
- 専門家への橋渡し

活動目的②
院内の緩和ケアの質向上

- 病棟や外来看護師とのカンファレンス、事例検討
- 多職種カンファレンス
- 緩和ケアチーム活動（コンサルテーション）
- 緩和ケアやエンド・オブ・ライフ・ケアに関する研修

活動目的③
県内における緩和ケアの普及および質向上

- 一般市民や医療関係者を対象とした緩和ケアに関する研修・講演会
- 地域の医療・福祉関係者とのカンファレンス

緩和ケア病棟

Palliative Care Unit

患者さんやご家族が、その人らしく過ごすことができるように、痛みや息苦しさなどの症状緩和など、緩和ケア専門の医師・看護師・薬剤師など多職種がチームとなってサポートしています。対象は当院入院中の患者さんで、患者さん・ご家族が理解され承諾された方になります。

積極的な抗がん治療（手術・化学療法・根治的放射線照射）は実施しませんが、苦痛緩和と生活の質の向上のために集中的に症状緩和を行っています。全室個室の21床で、各病室には冷暖房が完備されています。

患者サポートセンター

Patient Support Center

患者サポートセンターは、がん相談支援、入退院支援、地域連携を主な業務としています。

地域医療連携部門

- FAX、電話による外来受診予約
- セカンドオピニオン
- 返書管理
- 広報活動（講演会開催、広報誌の発行）
- 地域連携パス

入院支援部門（入院支援センター）

- 患者情報の把握と入院生活へのアセスメント
- 入院説明

退院支援部門

- 退院支援
- 転院調整
- 在宅療養支援
- 各種医療制度や介護保険サービスの相談、福祉サービス相談

がん相談支援部門（がん相談支援センター）

- がんに関する相談全て
- ハローワークと連携した就労支援
- 産業保健総合支援センターと連携した治療と仕事の両立支援
- 臨床心理士による心理サポート
- ボランティア活動や患者会の窓口、およびサポート業務
- 苦情や医療安全にかかわる相談

当センターは、国立開発研究法人国立がん研究センターによる「認定がん相談支援センター」の認定を受けています。院内外を問わず、患者さんやご家族の相談者とともに、患者さんがその人らしい生活や治療選択ができるように信頼できる情報提供やがんとの向き合い方を考えます。

薬剤部

Department of Pharmacy

「がん専門病院としての役割を果たすため、薬剤師として安全で質の高い薬物療法の提供に貢献する。」を理念とし、調剤、薬の説明、薬学的ケア、薬の管理、抗がん剤を中心とした注射薬の無菌調製などの業務を行っています。また院内の各種委員会や医療チームの一員として活躍しているほか、「がん専門薬剤師」、「緩和薬物療法認定薬剤師」など専門性の高い人材が活躍しています。

リハビリテーション科

Department of Rehabilitation

がん診療連携拠点病院のリハビリテーション科として手術をはじめ、がん治療に伴う廃用（体力・筋力低下）予防、がんそのものによる機能障害に対するアプローチ、そして緩和ケア主体となる時期には疼痛・呼吸苦などの症状緩和や在宅療養生活の支援など治療の各段階に応じて介入しています。また他部門との情報共有に努め、患者さんの要望を尊重しながら、少しでも「生活の質」を高められるよう取り組んでいます。

がんゲノム医療センター

Cancer Genomic Medicine Center

がんは「遺伝子」の変異の蓄積で発生し、その変異はがん患者さんごとに異なります。がんゲノム医療は、がんが発生した臓器ではなく、がんの原因となる遺伝子の変異に基づいて診断・治療を行う医療です。その要となる検査が「がん遺伝子パネル検査」であり、がんの遺伝子変異を同定し、その変異に合う薬剤の有無を調べます。

がんゲノム医療を実践するために、がんゲノム医療連携病院の指定を受け、がんゲノム医療センターを立ち上げました。がん遺伝子パネル検査を希望される患者さんとご家族のサポートに加え、中核拠点病院・拠点病院との連携体制を整え、県内のがんゲノム医療の一翼を担っております。

●がんパネル検査実施状況

当院での遺伝子パネル検査	194人 (2020年3月～2022年12月)
新しい治療が見つかった患者さんの割合	8.8% (17/194人) 保険適応　11名 治験・臨床試験　6名
二次的所見が見つかった患者さんの割合	11.9% (23/194人) カウンセリング受診 7名

●がんパネル検査実施状況（臓器別） 令和4年12月現在 194件

交通のご案内

○路線バスご利用の方

- ▶新潟駅前・万代シティ・古町・市役所・青山方面より …… BRT萬代橋ライン「白山駅前」下車　徒歩3分
- ▶新潟駅南口・上所・近江・出来島方面より …… C1県庁線「がんセンター前」下車
- ▶大学病院・市民病院方面より …… S1市民病院線「がんセンター前」下車

新潟交通のバス路線はこちらから

○高速バスご利用の方

- ▶新潟市外より「新潟行」高速バス乗車→「がんセンター前」下車

○電車ご利用の方

- ▶JR越後線「白山駅」下車　徒歩2分

○自家用車等ご利用の方

- ▶新発田方面より …… 新潟バイパス「桜木インター」から約3.7km。新潟市役所方面へ進み、昭和大橋を渡ってすぐ左折。
- ▶長岡方面より …… 新潟バイパス「女池インター」から約3.4km。県庁方面へ進み、千歳大橋を渡ってすぐ右折。
- ▶高速道路ご利用の方 …… 新潟中央インターから約5.0km。県庁方面へ進み、千歳大橋を渡ってすぐ右折。

○阿賀町バス

阿賀町より「がんセンター新潟病院前」下車

○村上高速のりあいタクシー

村上市より「新潟県立がんセンター新潟病院」下車

新潟県立がんセンター新潟病院

〒951-8566 新潟市中央区川岸町2丁目15番地3
電話（025）266-5111

http://www.niigata-cc.jp/